

こんにちは、はじめまして。

今月のわんにゃん通信は新人の池田が書かせていただきます。

働き始めて3か月が経ちましたが、まだまだ慣れないことばかりです。自分のことで手一杯になってしまい、周りをよく見ててきばき動けるようになるにはもう少し時間がかかりそうです…。

でも、きちんとした診察・治療をする獣医師の先生たち、しっかりしてみんな仲の良い看護師さんたちのもとで働くことができ、私は恵まれているなあ実感します。

少しでも早く一人前になって役に立てるよう、努力していきます！



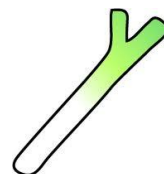
食事の管理は、わんちゃんやねこちゃんを飼う上で欠かせないことです。よく、「タマネギやチョコレートは食べさせちゃだめ！」と聞きますが、なぜ与えてはいけないのか、与えるとどのような症状がでるのか、ご存知ない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回はそんな食事の注意についてのお話をしたいと思います。

① 1. 与えてはいけないもの

① タマネギ類（タマネギ、にんにく、ニラ、ネギなど）

「アリルプロピルジスルフィド」という有毒成分を含んでいるため、中毒をおこします。貧血をおこし、目や口の粘膜が青白くなり、ふらつきや血色素尿などが現れ、死を招く恐れもあります。

※ タマネギそのものだけでなく、タマネギが入っているハンバーグやすき焼きの汁なども要注意です。



② チョコレート、ココア

「テオブロミン」という、犬には分解・解毒ができない有毒成分を含んでいるため、中毒をおこします。興奮状態に陥り、呼吸や脈が速くなります。

利尿作用により、失禁、血尿、脱水をします。

中毒による下痢や嘔吐もあり、ケイレン、失神、死に至ることもあります。





③ 魚の骨、鶏の骨

魚の骨はのどに引っかかったり刺さったりします。
鶏の骨は割れた部分のささくれが刺さり、危険です。



④ 嗜好品



コーヒー・紅茶・緑茶

カフェイン中毒になり、チョコレートを食べた時と同じ症状がでます。

お酒類

人間と同じように、中毒の恐れがあります。



⑤ 猫にドッグフード

猫に必要なたんぱく質、アルギニン、タウリン、アラキドン酸、
ビタミンA、ナイアシンが不足しているため、長期に与え続けると栄養失調、
成長不良、失明、死を招きます。

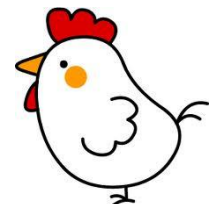
ちなみに、犬にキャットフードを与え続けると肥満になります。



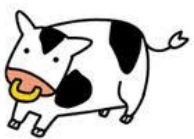
②. 与え方に注意

① 卵

生の白身には、皮膚や被毛に大切なビオチンを破壊する酵素が入っています。
ビオチンが欠乏すると湿疹や皮膚炎、貧血などをおこします。
ゆでた卵は良質なタンパク質なので与えて良いです。



② 肉類

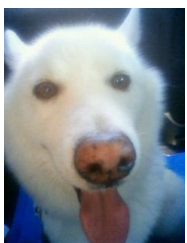


脂肪分の多い肉を与えると、消化・吸収ができず下痢をします。
与えるのであれば、高タンパク低脂肪である鶏のささみ、牛の赤みなどが
良いです。また、肉だけの食事でも栄養が偏り、よくありません。
(魚だけ、野菜だけなども同じです。)



③ おやつ

おいしいので、普段のフードを食べなくなることがあります。高カロリーで
すし、あくまでも「おやつ」なので、スキンシップやしつけのご褒美として
適度に与えるようにしましょう。



わんちゃんやねこちゃんにとって、食事は1日の中で
とても楽しみにしている時間のひとつです。
毎日きちんと、新鮮で良いフードと水を与えましょう。

